

島根県の 教職教養実施問題速報 (2025 年 5 月 17 日実施)

出題傾向

島根県の教職教養試験は、すべて五肢択一の選択式で、1問ずつ解答する形式。大問15問で構成されていた。内訳は、教育法規4問、教育時事4問、学習指導要領3問、教育心理2問、生徒指導1問、教育史1問であった。出題形式は、語句の空欄補充による組合せ問題が8問、○×形式の正誤問題が7問であった。

試験時間は20分と非常に短く、1問あたり約80秒で解答する必要があるうえ、問題文も比較的長いため、正確かつ迅速な読解力と判断力が求められる。空欄補充形式の比較的予想しやすい問題もあれば、細部まで問われる難問もあり、全体的な難易度は高いといえる。

出題例

- 1 次のア～エは、教育心理に関するものである。正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

- ア 生体が自己の内的要求や達成目標に応じて、その行動を整合的に始発させ、維持し、一定方向に秩序づけるはたらきを動機づけと呼ぶ。
- イ 学習過程をみると、一時的に学習効果がみられなくなることがある。この場合における学習曲線が一時水平になり高原状を呈するような現象を高原現象という。スポーツにおいては、競技者の成績が向上しない状態が続く場合をいい、ときには長期間にわたることがある。一般にスランプと呼ばれる。初心者においても、この現象は現れるといわれる。
- ウ 先行する学習が後続の学習に影響を与えることを学習の転移という。後続学習が妨害される場合のものを正の転移、促進される場合のものを負の転移という。影響が表われない場合には、本当に何の影響もない場合と、正と負の転移効果が相殺し合っている場合があり得る。
- エ 記憶したことが、時間の経過によって、どのように忘却されてゆくかを示す曲線を忘却曲線という。ドイツの心理学者エビングハウスが最初に見出した。最初急速に下降し、時間がたつとともに徐々に低下する。

	ア	イ	ウ	エ
①	○	×	×	○
②	○	×	○	×
③	×	×	○	○
④	×	○	○	×
⑤	○	○	×	×

2 次のア～エを読み、「学校教育法」で定められている内容として正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

- ア この法律で、学校とは、保育所、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。
- イ この法律で、国立学校とは、国の設置する学校を、公立学校とは、地方公共団体の設置する学校を、私立学校とは、学校法人の設置する学校をいう。
- ウ 校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。
- エ 経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童又は学齢生徒の保護者に対しては、都道府県は、必要な援助を与えなければならない。

	ア	イ	ウ	エ
①	×	×	○	○
②	×	○	×	○
③	×	○	○	×
④	○	×	○	×
⑤	○	○	×	×

3 次のア～エを読み、『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について』（中央教育審議会答申 令和4年12月19日）』に示されている「今後の改革の方向性」として正しいものに○、誤っているものに×をつけたとき、正誤の組合せとして正しいものを①～⑤から一つ選べ。

- ア 子供たちの学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」）を実現
- イ 養成段階を含めた教職生活を通じた学びにおける、「知識と経験の往還」の実現
- ウ 教師一人一人の専門性の向上と、多様な専門性・背景を有する人材の取り込みにより、教職員集団の多様性を確保し、学校組織のリスキリング（復元力、立ち直る力）の向上
- エ 学校管理職のリーダーシップの下、心理的安全性を確保し、教職員の多様性を配慮したマネジメントの実現

	ア	イ	ウ	エ
①	×	×	○	○
②	×	○	○	×
③	×	○	×	○
④	○	○	×	×
⑤	○	×	×	○

●●● 解答・解説 ●●●

1 ①

解説 ア 正しい。動機づけとは、生体が自己の内的要求や目標に応じて行動を始め、維持し、一定の方向へ秩序づけるはたらきを指すものである。 イ 誤り。学習曲線が一時水平になり高原状を示す現象を高原現象というが、これは成績の向上が止まった状態を指し、スポーツにおけるスランプの説明は合致している。しかし、この現象の学習曲線の説明とスランプの関係の説明が混同されているため、問題文の記述は不正確で誤りと判断される。 ウ 誤り。学習の転移において、後続学習が妨害される場合は負の転移であり、促進される場合は正の転移である。問題文では逆に記述されている。 エ 正しい。忘却曲線はエビングハウスによって示され、記憶の忘却が時間経過とともに急激に減少し、その後徐々に緩やかになる曲線である。

2 ③

解説 ア 誤り。保育所は学校教育法の「学校」には含まれない。 イ 正しい。国立学校は国、公立学校は地方公共団体、私立学校は学校法人が設置すると規定されている。 ウ 正しい。校長や教員は懲戒を行えるが、体罰は禁止されている。 エ 誤り。経済的援助は市町村の責任であり、都道府県ではないため、誤りである。

3 ⑤

解説 ア 正しい。令和の日本型学校教育では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を目指し、教師自身の学びの在り方も転換する必要性が指摘されている。これは、子供の学びと教師の学びを連動させた「新たな教師の学びの姿」として提起されている。 イ 誤り。「知識と経験の往還」ではなく、「理論と実践の往還」が正しい。 ウ 誤り。「リスクリング」は本来「再教育」「学び直し」の意味であり、「復元力」「立ち直る力」(これは「レジリエンス」に相当)とは異なる。 エ 正しい。本答申では、管理職のマネジメント能力の強化や、心理的安全性の確保、教職員の多様性への配慮を含んだチームマネジメントの重要性が強調されている。